

整備

行政

民間事業者

組織

地域住民

大学

アートイスト

芸術交流関係者

プロジェクトチーム

鳥城みち回遊公園

城下ポケットミュージアム

表町すまい型アトリエ

新規プロジェクト

公共交通

歴史資源活用

ほこみち空間

ご当地グルメ

旭川活用

Internet of Things

etc

1 鳥城みち回遊公園

地区内回遊のエントランス機能を有する拠点づくり

3棟で構成されるアートセンター

スタジオ棟

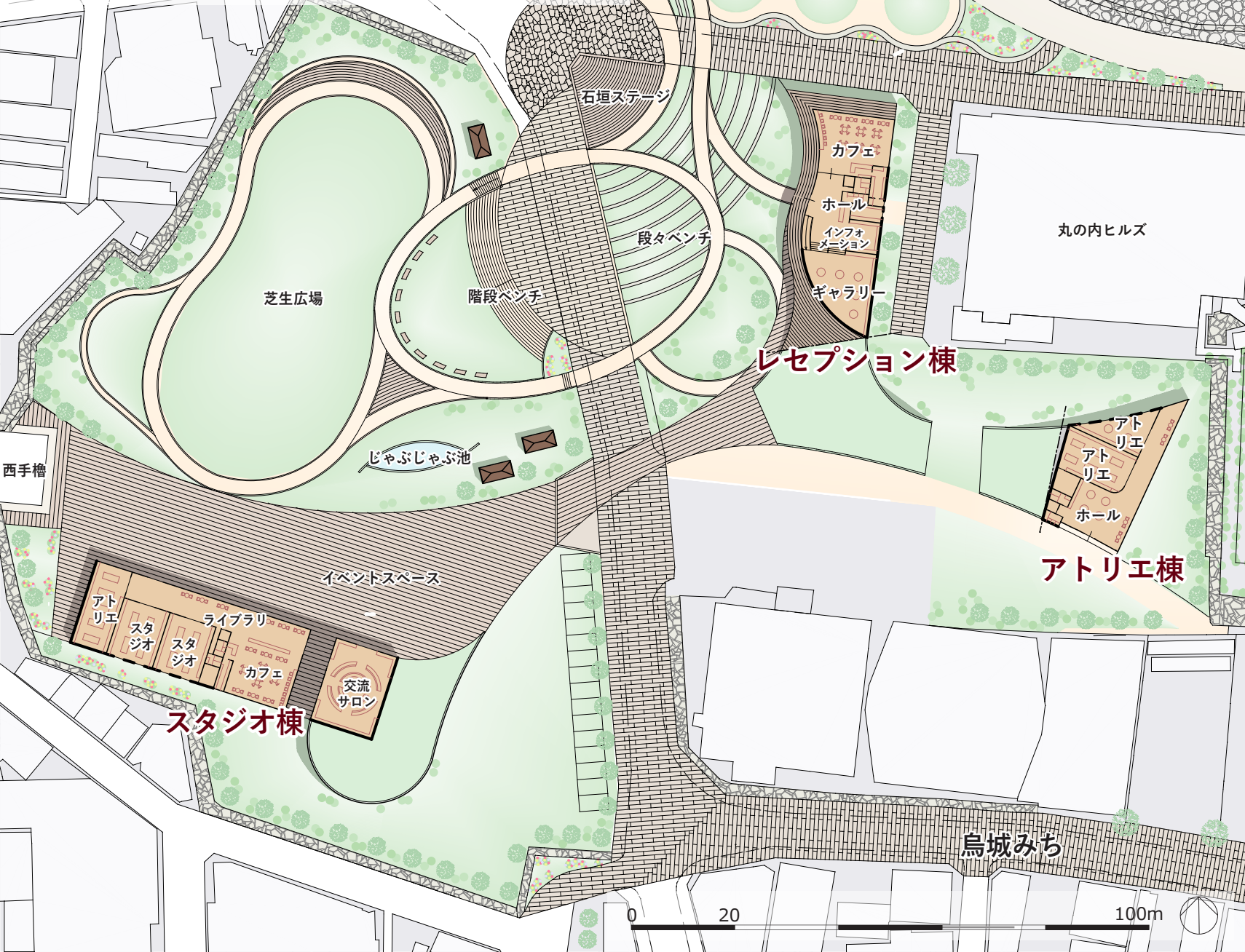
- スタジオ棟は、アーティストや地域住民が文化芸術にたししみ、技術や知識をばぐむとともに、交流の輪を広げていく場所となります。
- アトリエスタジオでは、アーティストが演奏を練習するほか、地域住民が音楽・絵画教室等で知識を磨くことができます。
- 交流サロンではアーティストと地域住民、アーティスト同士、地域住民同士などで情報交換を行うことができます。

レセプション棟

- レセプション棟は、当施設の運営の中心的な役割を担い、各棟の受付案内を行うほか、旧城下町地区内のエントランスとして文化施設へ誘導するインフォメーション機能を有します。
- ギャラリーは誰でもいつでも利用可能で、気軽に文化芸術鑑賞を楽しむことができます。

アトリエ棟

- アトリエ棟は、公園と少し距離を置きながらアーティストや市民が創作活動に集中する場所となります。
- アーティストだけでなく地域住民も体験教室やワークショップを気軽に開催することができます。



一体的な空間整備（癒し・憩い・交流・アート空間）

- 石山公園・市民会館・小学校跡地、駐車場跡地を一体的な癒し・交流・憩い空間として整備することで、市民や観光客が日常の中でリラックスしながら芸術文化にたししみ、創造力をはぐくみ、他者と交流する場所となります。
- 「岡山芸術交流」開催時には運営本部の活動拠点になるとともに、国内外からの芸術家が一同に集まる主要会場となります。



岡山城を眺められる

新・眺望スポット

- 公園内の建物は高さを抑えることで、園内のさまざまな場所から岡山城への眺望が楽しめるように配慮します。
- すべての建物の屋根に芝生を張ることで、建物の屋上でもリラックスした時間を過ごすことができます。レセプション棟で買ったコーヒーを手にアトリエ棟の屋上から眺める岡山城の景色は、岡山市の新名所となります。



イベント開催時の公園利用

- コンサートなどのイベント開催時には、石垣ステージやスタジオ棟前のイベントスペースを舞台として利用することができます。また、観客は段々ベンチや階段ベンチ、建物屋上の芝生などから心地よく鑑賞することができます。
- 大空間が必要となるサーカスやスポーツエキシビション等の開催時には、公園全域を一体的に活用することで対応します。

2つの交流拠点をつなぐ鳥城みち

- 岡山城方面や市街地方面からの来訪者を鳥城みち回遊公園へ誘導するため、これらをつなぐ鳥城みちを石畳舗装とします。
- 歴史ある上品で重厚な雰囲気演出することで、空間の価値が向上します。
- 月見橋と鳥城みちの交差点に位置する岡山県立図書館前のオープンスペースをアート展示場やカフェテラス、屋外図書館等として活用することで、鳥城みち沿いに人の賑わいを生み、地区内回遊性の向上に寄与します。

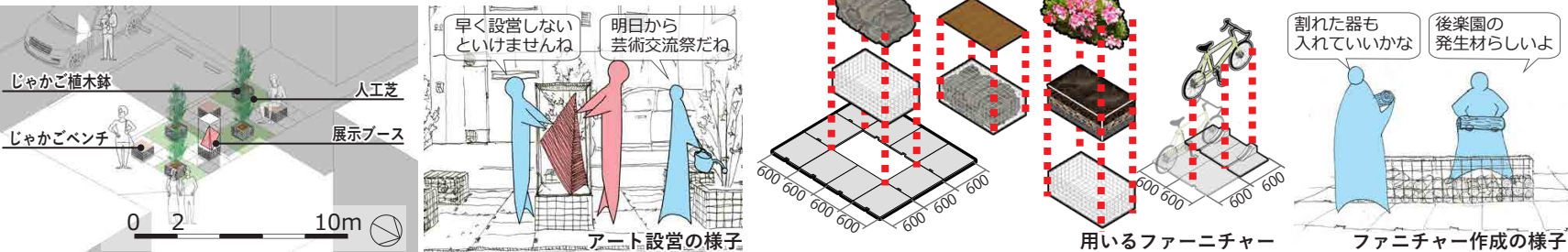


2 城下ポケットミュージアム

みんなでつくり、育てていくまちの表現の場づくり

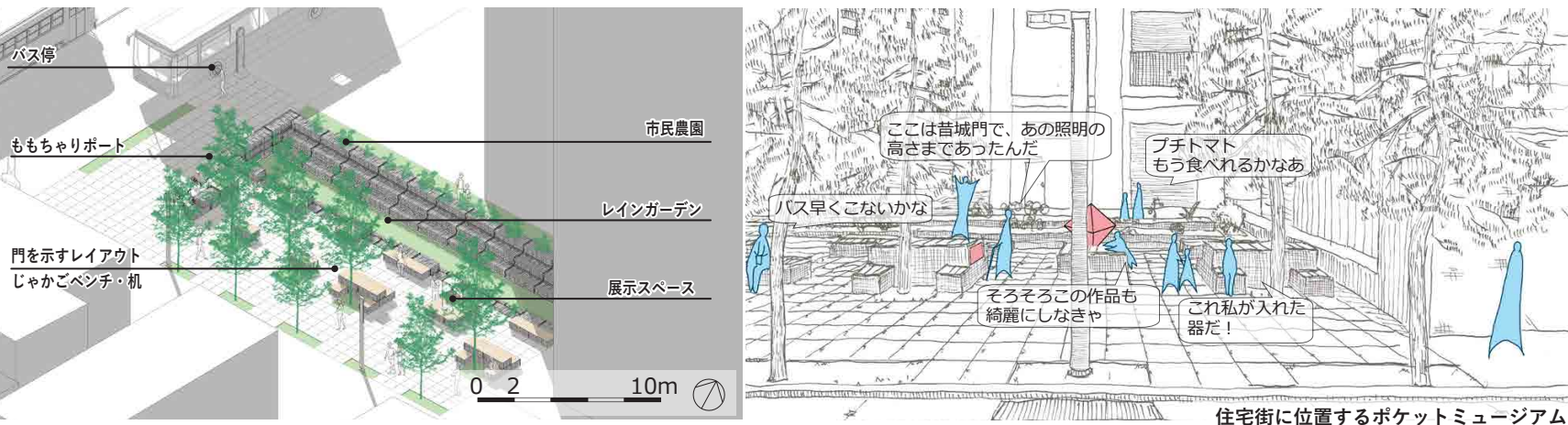
第一段階：低未利用地をポケットミュージアムへ —岡山芸術交流での社会実験—

- 「岡山芸術交流」の開催期間に駐車場1マスを借り上げ、休憩場所やアートの展示場所とします。
- アーティストと地域住民がベンチや植栽などを設え、管理していきます。ポケットミュージアムの制作・運営過程において、作り手同士や作り手と利用者など、人同士の新たな出会いが生まれます。
- ポケットミュージアムの認知度が高まるとともに、各会場からポケットミュージアムまでをつなぐ市街地全域への賑わいが向上します。
- 点在するポケットミュージアムの機能は、各々の環境や需要、イベント等にに合わせて変化していきますが、空間を構成するファニチャーや材料を統一し、まちの景観として一体感を演出します。



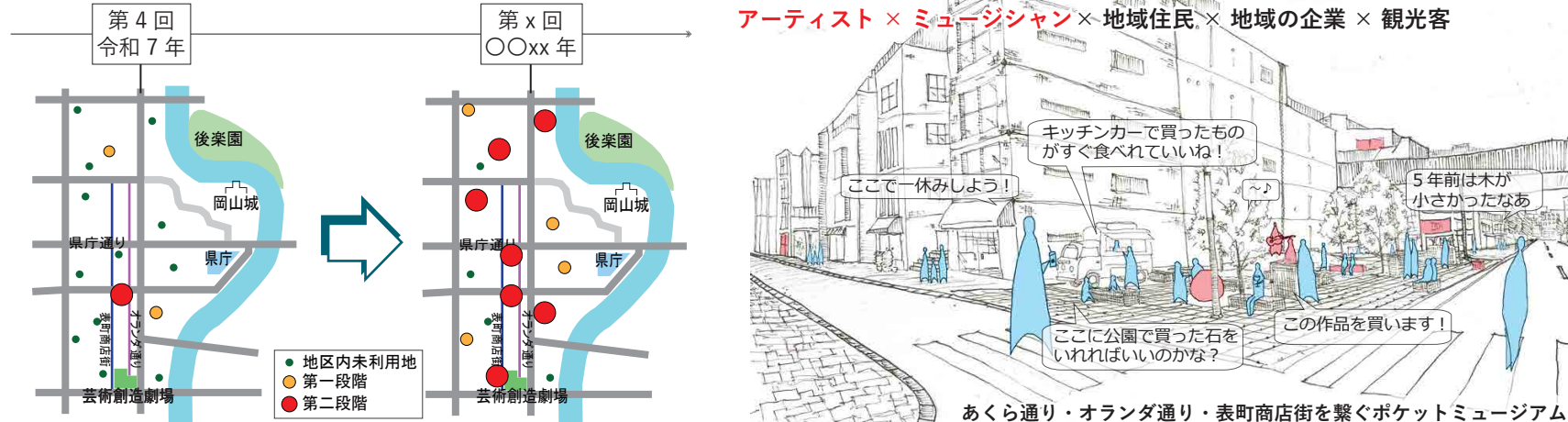
第二段階：城下ポケットミュージアムの常設

- 城下まちづくり協議会が主体となり、地域住民、企業や学校、アーティスト等とワークショップを開催し、ポケットミュージアムの敷地特性に合わせた機能やレイアウトを検討します。
- 商業地内のポケットミュージアムではキッチンカーが停車できるスペースやミュージシャンが演奏できるステージが、住宅地内のポケットミュージアムではブランターを用いた市民菜園が作りだされるかもしれません。
- 各ポケットミュージアムは、周辺環境の変化や利用者の多様化などに合わせ、機能やレイアウトの移り変わりを許容します。誰もが鳥城みち回遊公園レセプション棟で購入した材料をポケットミュージアム内のじゃこごへ入れられる仕組みをつくることにより、人々がこの場所へ訪れた証が空間に残されていきます。



第三段階：長期的なネットワークの広がり —文化芸術のまちへ—

- 城下ポケットミュージアムを制作・運営する輪は3年ごとに広がり、人とのつながりが希薄になりつつある地域で新たなコミュニティを創出します。
- また、地域住民がアーティストと繋がり、文化芸術活動に興味を抱ききっかけが生まれることで、新たな担い手育成が促進されます。
- 城下ポケットミュージアムに完成はありません。展示作品や機能が、時代や街並みの変化に伴い適応し続けることで、訪れる人に更なる発見や新たなつながりを創出し、まちと人、人と人とを繋ぎ、まちを楽しく愛着のある場にしていきます。

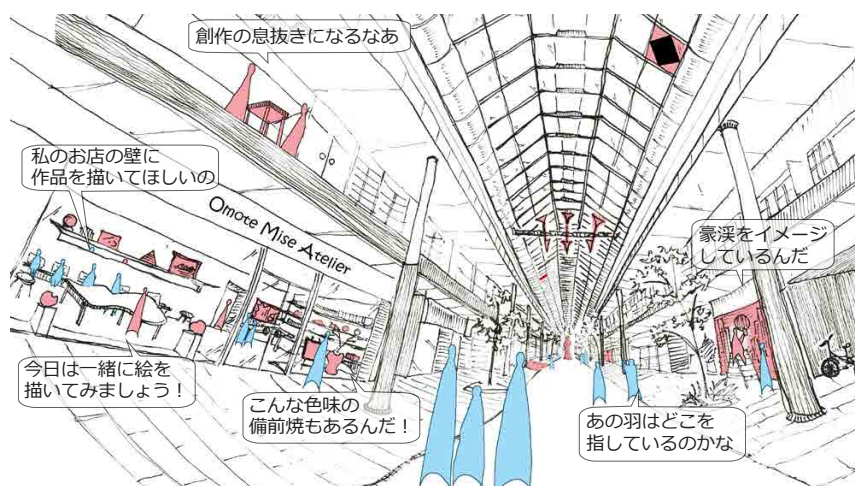


3 表町住まい型アトリエ

アーティスト・地域住民・観光客で共創する交流拠点づくり

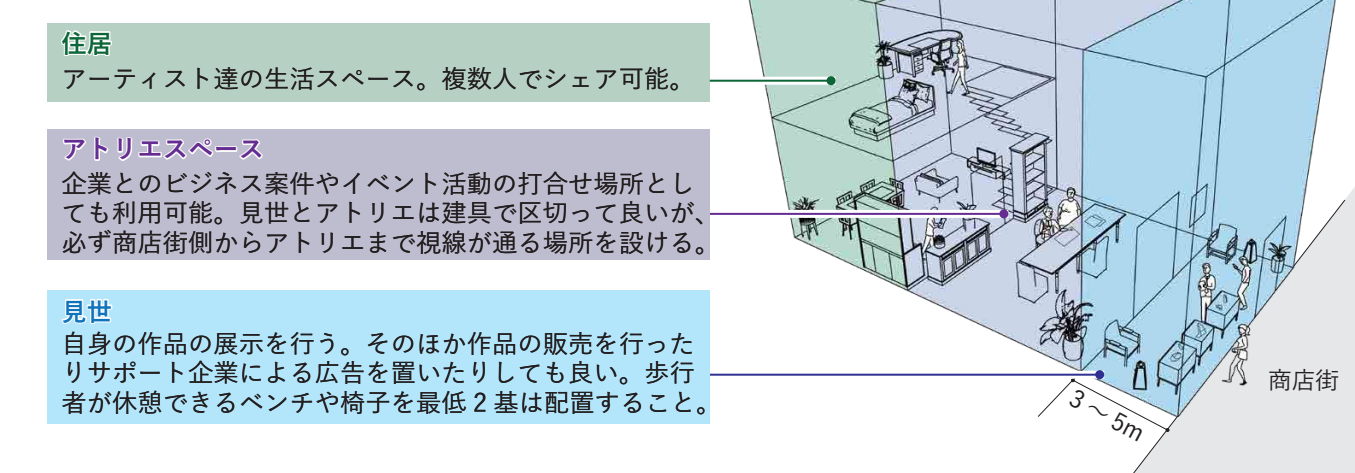
空きテナントを住まい型アトリエへ

- 住居・アトリエ・展示空間を備えた「表町住まい型アトリエ」では、アーティストが本市の魅力を発掘・再解釈し、文化芸術活動を展開します。
- 地域住民をはじめ、来訪した市民や観光客は、展示された作品の鑑賞やアーティストとの対話の中で、本市の魅力に改めて気づくとともに、芸術文化に触れる楽しさや喜びを感じられる場所となります。
- アーティストと市民、観光客、企業など様々な形で交流が深まり、新たなイベントやビジネスを創出する場所となります。



空間構成 —表町住まい型アトリエのルールづくり—

- 江戸時代の商店街の賑わいを形成した「モノ」や「ヒト」による「コト」が通りから見えるような風景を演出します。



文化芸術活動を人からをまちへ波及 —文化芸術のまちへ—

- アーティストやデザイナーは、作品制作ワークショップや音楽レッスン、イベント企画など、市民や観光客を巻き込んだ活動の場所を岡山芸術創造劇場やアートセンター、ポケットミュージアムなどへ広げていきます。
- 既存及び新設される文化施設の利用率が向上するとともに、芸術文化活動の担い手育成が促進されます。

